

1 はじめに

1.1 研究の背景

京都市の自治会、町内会アンケート(京都市 2016)によると平成二十八年度の京都市の自治会加入率は平均して 68.5% (推計加入世帯数: 488,257 世帯/総世帯数 712,625 世帯) である。参考までに平成二十四年度の加入率は 69.8% (推計加入世帯数: 481,093 世帯/総世帯数 689,416 世帯) である。少しとはいえ加入率は 4 年間の間で減少している。私は 204 戸の部屋があるマンションに住んでいる。そして親が自治会の役員をしていた都合で自分も手伝いをしたことがある。このマンションの自治会の加入率は 2017 年現在、46%(加入世帯数 94 世帯/総世帯 204 世帯)であり、今では 90 世帯を割らないので必死である。自治会員の方々は常に運営に苦勞されている。例えば資金面では自治会員の数が少ないために会費も少なく、地蔵盆などの規模が縮小されている。またラジオ体操をやり終えた子供たちのプレゼントも若干減っている。また人材面では男手が不足しているのでイベント時のテントの設営や、災害時用の水の運搬などの力仕事を同じ人ばかりがやっている。そして自治会の役員は輪番制であるのだが人が足りていないためにこれも同じ人が何年も役員を務めているし、地域の組運動会や球技大会の出場者を集めるのも苦勞している。年齢的にも高齢者の方が徐々に増えてきており、世代交代も課題になっている。20代の方が少ないのは、もちろん 30~40 代の間層の自治会員の方が少ないのが問題となっている。自治会の加入率の減少にはどのような要因があるのか、また自治会活動が活性化するにはどうすればよいのか、この 2 つを様々な先行研究およびインタビュー調査を通して探っていく。

1.2 自治会と管理組合

混同されることが多い自治会と管理組合の違いから説明したい。自治会はそのマンションに住む住民同士はもちろん、地域の住民たちとの親睦を深め、地域との絆を深めることを目的としている。

岩崎信彦は自治会についてこう述べている。

自治会の目的は町内の生活を住みやすいものにするために、共同生活の環境、条件を保全し、町内生活の親睦、交流を促すことである。活動内容は多岐にわたるが 4 つの機能にわけることができる。1 つ目の機能は目標達成機能である。このシステム自体の集団目的を特殊に遂行し達成する機能である。全体社会では政治がこれにあたるが自治会においては共同生活の環境、条件の整備、保全機能がこれに対応する。細分化すると(1)客観的生活基盤の整備—道路、排水溝、街頭、緑化、交通、教育施設の整備(2)共同生活の防衛—防犯、消防、交通安全、公害除去、近隣建造物の規制など(3)地域福祉活動—青少年非行防止そして老人福祉、障害者福祉などであ

る。2つ目の機能は社会的統合機能である。それは特殊な仕方でのその成員の志向をシステムの秩序維持の方向へ導こうとする機能である。全体社会では社会統合にあたるが、自治会においても同様に相互扶助、近隣共同—葬式の互助、共同購入、近隣苦情など(2)世代対象の活動とその集団への援助—青少年育成活動、敬老会、子供会、婦人会、老人会への援助、(3)伝統の維持—自治会自体が毎年行ってきたことを伝統として維持していく、さらにより広域での伝統行事の存続に協力すること、(4)全世帯加入制—世帯を単位として全員加入を原則とし、それを促すこと。3つ目の機能は潜在的機能である。この機能はどのような個人にも普遍的に備わる属性であるとともに、そのシステムの存続に対して潜在的な機能を有しているものである。全体社会では文化がこれにあたとされているが、自治会では意見交換合意の形成、個性の交流と共同感情の表出の機能である。この機能は自治会すべての活動が有しているもので、活動の前段階での意見の交換と合意の形成、活動を通じての個性の交流、共同感情の表出が行われるものである。そして「苦勞もあつたが、楽しかった」という経験が共有されていくとともに自治会の集団的モラルも蓄積されるものである。この機能を担っているものを挙げるとすると(1)町内の親睦、交流の活動—レクリエーション(運動会、盆踊り、ハイキングなど)、祭り、親睦会など、(2)総会、役員会、学習会、研修会の開催、会報、会誌などの発行である。最後の4つ目は適応機能であり何らかの普遍的な原則にそくして、外界との交渉をもち、その過程の中から当該システムの資源を調達する機能である。全体社会では経済がこれにあたとされているが、自治会の機能にあたっては公的・共同的資源の調達機能に対応させることができる。換言すれば、構成員をそれによって町内会の諸活動に参加させるこのできる客観的、主観的な資源の調達の機能である。これには次のような活動が含まれる。(1)会費の徴収による財産基盤の確立—会費をはらうことによって自治会のメンバーシップを確認するとともに、金の財産基盤を確認する。(2)行政にたいする協力活動—市政への協力、赤十字募金、赤い羽根募金などを通じて、公的業務の分担によって一つの公的権威を獲得すること。(3)行政に対する陳情活動—行政に対する協力活動によって、ギブアンドテイクの形で確保した行政への要求権を行使すること。(4)地域諸団体への支持、援助—体育振興会、消防分団、少年補導委員会などの学区レベルの団体への財政的支持と活動提供、(5)自治会財産の管理、運用—自治会の活動の基礎条件となる集会所を確保すること、その自治会財産の管理、運用などである。(岩崎 1989:420)

自治会は地域によって異なるがほとんどの自治会は加入については任意である。一方管理組合は区分所有法という法律で加入が義務付けられており、部屋を所有するのであれば必ず加入し、会費を払わなければならない。そしてマンションという1つの資産の保全を目的としており、マンションの共同財産、例えば廊下、階段、エレベーターや消

火器などの管理を請け負う組織である。自治会は地域とつながるという特性上、自治会に加入すると、学区というより大きなくくりの自治組織に加入しなければならないことが多い。例を挙げると共同募金運動や福祉サービスを推進する社会福祉協議会、地域の運動会や球技大会などを主にとりおこなう体育振興会、夜間に子供達のパトロールをする少年補導委員会などである。マンションによっては独自の自治会がなく、学区の自治組織に任意で加入するタイプのマンションもあれば、筆者のマンションのようにマンション独自の自治会が存在しており、そこに加入すると自動的に学区の自治組織に加入することになるタイプのマンションが存在する。下で詳しく説明するが学区の自治組織にとってもマンションというのは特異な存在であるらしく、1つのマンションが自治組織に入ってくれるだけで住民の数が多いために組織の人数も増えるが、逆に数が多いために一部屋一部屋勧誘していくわけにもいかず、また一軒家に比べても人の出入りが多いために実態を把握しにくいという問題が発生している。

1.3 学区について

京都市には学区というくくりが存在する。地域の自治を考える時には必ず絡んでくる要素のためにここで説明したい。

岩崎信彦は学区についてこのように述べている。

学区は明治二年に成立し区・組・学区・元学区と名称を何度も変更したが、公同組合以降の京都市町内会の重要な組織単位である。学区は京都市における住民自治および行政業務の基本単位であったし、前者の点に関する限りは現在においてもそうである。それは明治二年から昭和十七年に至るまで学事の基本単位であったし、明治二年から十九年までは役所設置区域であった。また明治三十年から現在にいたるまでは住民自治組織の連合体が設置される区域でもあったし行政協力や行政要望が組織される基本単位であった。学区は人為的な所産であり、歴史の舞台には明治二年の第二次町組改正により京都府が強制的に成立せしめた上京三三、下京三三合計六五の番組として登場した。番組は学区の単位であり、各々の番組が原則として1つの小学校を建設した。番組はまた教育以外の戸籍、保健、警察、消防などの行政業務単位であり、小学校が総合庁舎の役割を果たした。こうして成立した学事単位行政単位としての番組が、明治五年には区、明治十二年には組と改称され、明治二十五年には学区という名称をとる。この時の学区は60である。学区は京都市に編入された地域にも設置され、その数は昭和六年の時時点で101に昇る。また学区は昭和四年以降番号ではなく、原則としてその学区内にある小学校の名前を冠して呼ばれるようになっている。昭和十七年の学区制廃止以降、公式には学区は存在しなくなっている。しかし実際には現在に至るまで住民自治活動の単位として存続している。現在ではそれは自治連合会(学区内の町内会の連合体で各種地域

団体が加入している場合もある)や、それと表立体の関係にある市政協力委員連絡協議会の組織単位として機能している。(岩崎 1989:78)

2 自治会加入率減少に影響を与える要因

2.1 一般的な自治会の加入率低下の要因

自治会の加入率の低下に影響を与える要因を先行研究から探っていきたい。中田実(2007)によれば、社会の近代化が進み個人が能力によって評価されると、個人とその生活の場である地域との関係は偶発的な性格になっていく。とくに都市部では、統計的には数年で全市民が入れ替わる流動性の高いところもある。ふるさとと呼べるような愛着のある地域を持たない所謂『根無し草』の人間が膨大に膨れ上がっている。こういう人々が多い地域では地域についての知識もなければ愛着もない。地域にたいする無関心が広のである。また辻中豊(2009)によれば、自治会の低加入率は地域における集合住宅の多さと単身世帯の多さの影響が考えられる。集合住宅の居住者や単身世帯は地域社会への関心が希薄であり、地域活動への参加に対して消極的である。そして鱒坂学(2008)によれば高度経済成長期以降、職住一体の生活空間であった都市部の町内が徐々に業務地化していったことにより跡継ぎがサラリーマンとなり消滅する自営業がおおくなり人口が郊外へ流出し高齢化と少子化が進んでいくドーナツ現象によって自治会や町内会の担い手が減少する。このようにそれまでは自営業の家で生まれ育ち、家業を継ぎ、発展させていく過程でその地域とも密接にかかわることにより地域の活動にも熱心であった人が多かったが、高度経済成長期をえてサラリーマンなどの出稼ぎ労働者が増えたり、未婚者も増加してきたことで生活形態が多様化していき、地域というものを身近に感じる人がなくなった人が増えた。そのために地域のために何か活動することの意味が分からために、自治会に加入しない、またそもそも自治会が自分の地域にあることも知らない人が増えてきているのである。このように自治会・町内会の存在の意義を住民が理解していないことがある。そこで次に地域の住民たちが指摘する自治会・町内会の問題についていくつか挙げてみたい。岩崎信彦(1989)はこう述べている。1つ目は町内社会の統合、調整の問題であるこれは伝統主義による拘束や停滞、よそ者意識、排他主義、信教の押し付けなどで町内の住民の考えが全くまとまらないことである。2つ目は合意形成と共同感情の表出に関する問題である。ボス的な支配者がいたり、おおきな派閥ができるなど人間関係の複雑さの問題である。3つ目は公的・共同的資源の問題である。自治会費がなかなか調達できなかつたり、募金などの寄付を強要されたり、行政などの依頼業務が多すぎたり、特権を私的に利用する役員が現れたりすることのわいろの問題などである。こうした問題は未加入の人に自治会というものにネガティブな印象を植え付けるであろう。次に広報の度合いも関わってくるということが分かった。1つは自治会

に参加するきっかけのバリエーションである。田中志敬(2016)によれば、町内会・自治会の加入のきっかけと不参加の理由をアンケートで調査してみると、地域や生活形態ごとに差異はあるがまず自治会の加入のきっかけの項目においてはチラシやウェブサイトを見て加入したという割合が多い地域があった。同様に不参加の理由として「活動を知らない」、「関心がない」という割合が多い地域があった。以上の事から、自治会の加入率の増減の要因には自治会活動の広報の度合いも関わってくる事が判明した。

2.2 マンションの自治会の問題

次に私に関係のあるマンションの自治会の問題について見ていきたい。岩崎信彦(1989)によれば、多くの大都市の都市部では大規模高層マンションやワンルームマンションに住む新住民が増加している。都心ではマンションに住むことが普通のこと、標準のスタイルになっている。この現在の都心の地域コミュニティではこの新住民と従来からその地域に暮らしてきた旧住民との関係が大きな問題になっている。マンションの所有形態や利用の方法の違い、建築年数や居住年数の違いによるマンション内外の人びとの付き合い、地域行事への参加について大きな差異があることが判明した。特に2000年代以降に建てられた大規模マンションやワンルームマンションではマンション内外において人間関係の疎遠が明らかになっている。1970年代にコミュニティの危機がいわれた時期以上に、地域コミュニティの解体化、人間関係の裂け目が明らかになっている。都市に住みたいという人々の、希望を満たす器としてのマンションは「都市の中の都市」である。しかしマンションは、建物の複雑さに比して住戸の区分所有者の自治的管理能力が未熟であり、都市の粗大ごみになりかねない。また集合住宅の形態によっても加入率には差が出る事が分かった。住宅類型と年収も関係してくる事が分かった。鱒坂学(2015)によれば、東京都中央区の例では世帯年収が1000万円をこえる世帯は賃貸マンションに住む割合が高く、一方600万円以下の世帯は公営賃貸マンションが高い。居住年数が長い人が多い公営賃貸に住む人が、内外の住民と親密な関係を保持しているが、民間賃貸と民間分譲は付き合いは活発ではない。公営賃貸の自治会の加入率は85.2%と高いが民間賃貸では15.6%、民間分譲だと57.8%になる。中央区には年収1000万円以上のアッパーミドル層と一時的な転勤などで移り住む新来層が多く、この2つの層は特徴として近隣や地域住民との絆の形成には深くかかわらず、町内会への加入には消極的な人が多い。以上の事から以下の要素が自治会加入率低下の要因と考えられる。

- ① 単身世帯数
- ② 町内社会の統合、調整の問題
- ③ 合意形成と共同感情の表出に関する問題
- ④ 公的・共同的資源の問題
- ⑤ マンションの形態
- ⑥ 広報

3 自治会加入率を増加させる要因

3.1 認知および動機付けによる自治会活動活性化

次に自治会活動を活発化させる要因について見ていきたい。お年寄りの地域活動に参加させるための取り組みについてはこうある。金貞治(2014)によれば中高年者の社会参加には、地域に対する共生の意識と社会参加を継続的に行うための動機付与などの方策が重要であることが示唆された。また、地域における社会参加を促進するにあたって地域住民個々人の社会参加に対する認知が重要な課題である。

3.2 地域力向上による自治会活性化

次に湯沢昭(2011)によれば地域の様々な問題を解決するためには地域力醸成が不可欠であり、そのためには地域力を構成するソーシャルキャピタルと社会共通する制度に注目する。ただしソーシャルキャピタルは直接的に地域力に影響を与えているのではなく、ソーシャルキャピタルは地域コミュニティや組織力に影響を与え、社会共通資本である各種施設整備や制度の改善と相まって地域力の向上に寄与する。上述したように自治会に加入しない理由にはそもそも自治会がどんな活動をしているかを知らないという層があり、そうした人達に直接自治会に入れというのではなく、地域力向上による住民同士のつながりを深めてもらいそこから自治会活動を知ってもらうということが大切である。つまり地域力の向上は自治会の活動を活発化させるはずである。

3.3 地域愛着による自治会活動活性化

地域力と似た概念として地域愛着がある。萩原剛(2005)によれば、地域愛着は人々がその地域の風土との関わり合いが強い人ほど高くなるとした。ここでの風土とは「自然と人々における様々な関わり合いの総体」であり、先行して存在する風土を見つめるあるいは感じるといった風土との関わり合いによって人々や自然環境あるいはそれらで構成される地域という概念が事後的にもたらされると想定する。この続きで自動車という交通手段は外気から隔離された小さく閉じた空間である一方公共機関や徒歩は外気に触れる機会をもち自動車に比べると様々な音やにおいと接触する。また道路沿いの看板や標識など派手で目につくものをよく見る傾向を有している自動車に比べ徒歩の場合は足元の草花、商店街に並ぶ商品の1つ1つといった小さいものをよく見る傾向がある。すなわち自動車は他の交通手段に比べて自然環境や他者との関わり極力避けるよう設計された、風土との関わり合いの小さい交通手段であるために自動車を頻繁に利用する人は、風土との関わり合いが小さくなる一方、他の交通手段を利用する人は自動車を頻繁に利用する人に比べて風土との関わり合いが大きい。ここから言えることは徒歩や自転車、交通機関を多く利用する人は、風土とよく関わるために、結果的に地域愛着もあがるということだ。この研究をもとに鈴木春奈(2008)はこうのべている。地域愛着が高い人ほど町内会活動やまちづくり活動などの地域への活動に熱心である傾向が示されたさらに地域愛着が高いほど地域内の活動について他者に依存する傾向が低く行政を信頼する傾

向も示された。地域内の他者に依存する傾向が低いという点は地域愛着が高い人がそうした傾向を示していることを踏まえれば地域の存在を軽視し地域への関与を厭うというよりは、主体的な地域への責任感が存在する可能性を示唆するものといえよう。このような責任感とは地域内での協力活動への参加を促す動機となるであろう。また鈴木(2008)によれば、地域愛着の規定因は年齢や居住年数、性別、人種などの個人属性の他、治安などの周辺環境や近隣住民との日常的接触や、地域に存在する慣習や祭りごとや治安、行政サービスといった社会的環境、立地している施設や手に入る商品、自然環境といった物理的な環境などの諸要因が地域愛着に影響を及ぼしうる可能性を示唆されている。そして特に消費行動においては家の近くにある小規模店、商店街あるいは小さなスーパーでの買い物頻度や徒歩で買い物する割合が高い場合に、買い物中にコミュニケーションを行う傾向が強くなる一方でそうしたコミュニケーションを行う傾向が高いとより高い水準の地域愛着が報告されている。

以上のことから自治会加入率を増加させる要因について以下の事があげられる。まず1つ目は地域で共生していくことの動機付けおよび個人の社会参加と公的機関の関与の整合が求められるということである。2つ目はソーシャルキャピタルおよび地域力増加。3つ目は地域に対する愛着つまり地域愛着が高いほど地域への活動の熱心であり、その地域愛着は個人属性、社会制度や治安、近隣住民との接触量などに影響を受ける。また同じく交通手段や消費行動、街の景観などにも影響を受ける。

4 インタビュー調査

4.1 調査の詳細

本調査は2017年9月から12月にかけて行った調査である。まず筆者が住んでいるマンションの自治会関係者の方5名および自治会加入率が高い京都市北区紫野学区の自治会関係者の方3名、合わせて8名の方にインタビュー調査を行った。そこから2つの自治会の加入率の差に影響を及ぼす要因を探ろうと考えた。

調査内容としては共通の質問として自治会加入の経緯に関する質問、自治会活動のやりがいに関する質問、自治会活動の難しさに関する質問、これからの自治会活動の展望に関する質問である。また紫野学区にはどのような要素が他の自治会と違うかという質問、マンションの方には自治会に入らない方の理由についての質問を追加した。

2017年現在紫野学区社会福祉協議会は3035世帯、それに対し筆者のマンションの自治会は95世帯である。そしてその中で本調査が行った数はたった8人である。それに紫野学区という一つの大きな地域組織と筆者の住んでいるマンションでは規模から活動において大きな差が出るため単純に比べることはできないであろう。本調査ではっきりとこの2つの自治会の違いが出るとは思わない。しかしだからといって全く関係ないと言い切ることはできず、本調査の結果は自治会加入率の減少の要因と自治会活動の活発化の要因のいくつかは示すことができるのではないかと思っている。

4.2 紫野学区について

ここではインタビュー調査を行った紫野学区について概要を述べる。紫野学区は京都市の北区に属している(図 1 参照)。そして京都市北区統計人口調査(京都市 2017)によると人口、世帯数は以下の表の通りである。

| 総人口 | 北区 | 紫野学区 | 京都市 |
|-----|--------|------|---------|
| 男 | 56554 | 3609 | 697553 |
| 女 | 62334 | 4171 | 774474 |
| 合計 | 118888 | 7780 | 1472027 |

表 1 京都市と北区および紫野学区の人口(2017年10月時点)

「出典：京都市 平成 29 年京都市北区人口統計調査」

| 世帯 | 総世帯数 | 男女別世帯数 | | 世帯構成人員別世帯数 | | | | | | |
|------|---------|---------|---------|------------|---------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | | 男 | 女 | 1人 | 2人 | 3人 | 4人 | 5人 | 6人 | 7人以上 |
| 北区 | 53,869 | 36,127 | 17,742 | 23,720 | 14,020 | 7,824 | 6,035 | 1,801 | 349 | 120 |
| 紫野学区 | 3,900 | 2,467 | 1,433 | 1,852 | 1,044 | 521 | 363 | 89 | 24 | 7 |
| 京都市 | 708,370 | 469,068 | 239,302 | 332,797 | 177,007 | 98,227 | 73,974 | 21,089 | 4,026 | 1,250 |

表 2 京都市と北区および紫野学区の世帯数(2017年10月時点)

「出典：京都市 平成 29 年京都市北区人口統計調査」

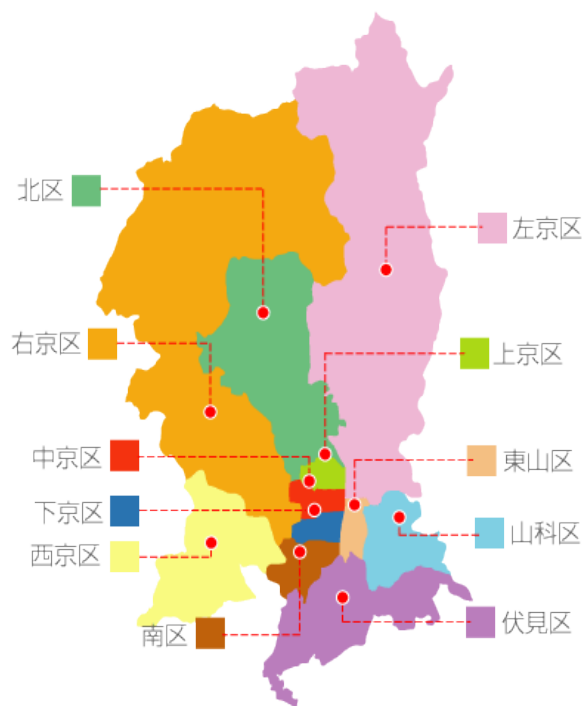


図1 京都市の行政区割

「出典：京都市ホームページ 京都市のあらまし」

紫野学区全体の自治会加入率は平成28年度時点で81.1%であり、京都市の平均加入率に比べても非常に高い。主な活動としては敬老会や防災訓練、さくらまつり、清掃活動、パトロール、盆踊り、そして露店などが集まるお祭りの紫野祭りなどである。一方学区が抱える課題としては空き家が増えており、人口の減少が見られ、また空き地が多く、火災に対する安全に対する問題がある。そして高齢化による世代交代の問題にも直面されている。そのため対策として空き家に若い世帯の入居を進め、親元への同居を促すことにより、若返りを図り、次世代への担い手を確保しようとしている。そのため学生ボランティアの拡大と小学生、お年寄りを含めたボランティア集団を組織しようとしている。

4.3 インタビュー内容

次に調査の詳細を見て行きたい。質問とその答えを乗せるとともに、マンションと紫野学区の方の比較、および先行研究と照らし合わせてみたいと思う。まず最初にインタビュー調査を行った全ての方の基本情報である

| | マンション | マンション | マンション | マンション | マンション | 紫野 | 紫野 | 紫野 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-----|-----|
| | Hさん | Mさん | Fさん | Sさん | Kさん | Iさん | Nさん | Eさん |
| 性別 | 女性 | 女性 | 女性 | 女性 | 女性 | 男性 | 男性 | 女性 |
| 子供の人数 | 2人 | 2人 | 2人 | 3人 | 2人 | 2人 | 1人 | 2人 |
| 居住年数 | 30年 | 25年 | 30年 | 30年 | 30年 | 70年 | 40年 | 40年 |
| 会長経験 | なし | あり | あり | あり | あり | あり | なし | なし |
| 役員経験 | あり | あり | あり | あり | あり | あり | あり | あり |
| 地域委員経験 | あり | あり | あり | あり | あり | あり | あり | あり |
| 仕事 | してる | してない | してる | してる | してる | してない | してる | してる |

表 3：回答者の基本情報

出典：調査結果から筆者が作成

居住年数の項目を見ればわかると思うが、全員長年同じところに住み、自治会活動に従事している。それではまずマンションの方のインタビューを詳しく見て行きたい。

H氏

何故自治会に入った。

絶対に入るものだと思っていたし、子供たちはこの地域に育ててもらったから、その恩返しのためでもある。いくらしんどかったとしても任期は1年、長くとも2年だ。長い人生の中でたった1, 2年くらい自治会で働いても、いいだろうと思った。

苦労したことは。

募金や勧誘などで各戸を訪問することだ。長年勧誘をしていると絶対に募金や勧誘を断る人も分かってくるが、そういう人達にも勧誘や募金をしに行かなければならないのはやはりしんどい。別に普段その人と仲が悪いわけではないのだが、勧誘の話になるとどうしても微妙な空気になってしまうのが嫌だ。

自治会に入らない人にはどんな理由がある。

まず入ったとしてもメリットが全くないと思っている人が多い。確かに何か報酬があるわけでもないし、自治会員だからと言って何か優遇されるわけではない。にも関わらず自治会費は払わなければならないし、時間をさいて会合には出ないといけない。デメリットしかないと思っているのではないか。でも自治会は損得勘定でやるものでもないと思う。

自治会に入ってよかったことは。

知り合いが増えたこと。私は趣味で卓球をしていて、地域の大会にも呼ばれたりするけど、そうした場で知り合いが多いとより楽しくなる。

これからの課題は。

人を増やそうとはあまり考えていない。昔は一軒一軒訪問して、勧誘していたりもしたが、無理やり入ってもらったとしても協力的ではない人も多い。やはりこういうボランティア活動に近いものだからこそ、自分からやりたいと思わなければ続かない。誰かひとりでも引っ張っていく人がいれば、自治会の雰囲気はがらりと変わったりする。数を増やすよりも頑張る人達が繋いでいってくれたらと思う。このマンション

が他のマンションと違うことは、住民一人ひとりがこのマンションを資産とと思っていることだと思う。このマンションに入った時に、管理組合から「マンションは資産ですから」と言われたが、よく理解できなかった。しかし今ならわかる。一軒家とは違い、マンションでは住んでいる部屋だけではなくて、マンション全体を1つの財産と考えなくてはならない。通路に物は置かない、掃除機は夜9時半まで、ペットの犬は小型犬かつ1匹まで、などこのマンションの住人が住みやすい環境を作るルール、ひいてはこのマンションの価値を高めるルールを皆がしっかり守ろうとしている。私はこのマンションに住んでいて、居心地が悪く思ったことは1回もない。マンションの質は住民の質であると思う。マンションの管理をただ管理会社に任せるのではなく、住んでいる自分たちが動くことで、非常に住みやすい環境が作られる。そのためか3世代がこのマンションに住んでいる家もある。3世代も同じマンションに住むのはこのマンションを住みやすいと思っているからだ。そうした若い人達はきっとこのマンションに愛着を持っているだろうし、このマンションのための活動もやってくれるだろう。そうした人達がいる自治会は規模は小さくとも、存続はすると思う。

M氏

なぜ自治会に入った。

入るのが当然と思っていた。自治会は任意だけど、任意だからこそ入るものだと思う。しかしいざ入ってみたら半分くらいしかはいつてなくてびっくりした。

苦労したことは。

大体4月に一軒一軒訪問して勧誘するのだが、それぞれ家にいる時間帯は違うし、時間をずらしていくのも大変だし、行ったとしてもインターホン越しで断られたりすると少し折れそうになる。小さいお子さんがいる若い人達が入らないのは疑問をかんじる。自治会に入ることを損と捉えているような気がする。このマンションの自治会は任意だから別に入らなくてもいいと言っている不動産もあるらしい。確かに任意は任意だけれどもそれを言ってしまうとマンションの自治が無茶苦茶になってしまうので、すごく不愉快だ。自治会に入らなくていいと思ったからこのマンションに来たという方もいるくらいだ。また自治会と管理組合との関係も少し微妙だ。会議などでも5~10人くらいでマンションの大事なことを決めているから自治会と共同で会議を提案しても、あくまで管理組合はマンションの管理が仕事だからと言われることもある。

自治会に入らない人にはどんな理由がある。

ただ役が嫌なだけだと思う。例えば夏祭りでは結構な数の人が参加してくれているから決して人の集まりやイベントが嫌いなわけではないのだろう。じゃあなぜ入らないかというとなら役が嫌というただその一点だけ。たしかにしんどいが、たった1年くらい自治会の役をすることでどれほどの物を背負うというのかわからない。

自治会に入ってよかったことは。

沢山の人と出会えたこと。このマンションの人はもちろんだが、自治会に入るとこの地域の自治連合ともつながりができるから、沢山の人と知り合うことができる。人そして地域とのつながりができる。最近マンションですれ違っても挨拶をしない人が多くなった気がする。知らない人が増えてくると少し不安になる。住民の力であいさつができるようになればそんな気分になることもない。防犯の役にたつのではないか。マンションひいては地域づくりをしているのが自治会であると沢山の人にわかってほしい。

これからの課題は。

未加入の人と一対一でじっくり話し、自治会のことをもっと知ってもらえるようになると思う。4月に広告としてチラシを回すが、あまりみてくれない。チラシを回したのになぜ加入しないのかというのではなく、1人1人丁寧な対応をしてあげればと思う。顔を合合わせて話すだけで全然違ってくるとう。ただ最近は個人のプライバシーがうるさくてなかなか出てきてくれない人も多い。やっぱり第三者が言うのではなく、友達や知り合いに言ってもらうのが一番だ。だから自治会に入っている人はどんどん周りに伝えていってあげてほしい。特に家族で住んでいる方が多いから子供のつながりで親同士が伝えることもできると思う。

F氏

なぜ自治会に入った。

何故入ったというよりもなぜ入らないのかなと思う。入ることが当然と思っている。

苦労したことは

自治会に入ればこのマンションだけではなく地域の自治活動にも参加しないといけないので、地域との関わり合いが大変ではある。この地域歴史が古いということも関係しているかもしれないけれど癖が強い。新しくできたマンションには勧誘自体をしないこともあり、現状維持に一生懸命な気もする。でも自治会は日常生活でいう保険のようなものだから、もし何かあった時にマンション単体では何もできないので地域とのつながりは重要なことだ。自治会に入っていないということは地域の情報から遠ざかるということだ。いざ何かあった時に避難所の情報など命に関わる情報を知ることができない事が不安ではないのかなと入っていない人達に対して思う。

自治会に入らない人にはどんな理由がある。

うちのマンションは役員や地域委員が固定になっているわけではなく、全員で分担することになっているが、逆にそのことがネックになっているかもしれない。自治会に入るのは構わないが、役員は嫌だという人は入りたがらない。それに仕事で時間がないという人もたくさんいるが、一昔前はなんとか仕事の都合をつけてでも会合の出席しているひとも多かったので時間がないというのは本当のところよくわか

らない。正直なところ何をするにしても自治会活動で大変ではないことはない。そのことをどうとらえるかは個人の気持ちの問題だし、そこまで踏み込むのもどうかと思う。しかし嫌なことが増えるわけではない。何をするにも負担はある。その負担の許容量は人によって違うけれども、その許容量を共有していくのが自治会だと思っている。

自治会に入ってよかったことは

知人が増えたことがまず大きい。それに私は地域委員も長年やっているからこの地域の今まで全く知らなかったところにも行く機会が増えた。それによってもっとこの地域に対する理解が深まったと思う。

これからの課題は。

呼びかけ文の内容は変えてもいいかもしれない。もっと緊急の際に入っておいた方が良くというニュアンスにした方が自治会の必要性というものを分かってもらえるのではないか。以前「結局自治会は役所の下請けだろう」と言われたことがある。そうすると住民自治はなにかと言えば緊急時には自助、共助、最後に公助がくる。だから最初から市の助けがくるのを待っていたら死んでしまう。まずは自分たちでなんとかしようというのがこの自治会という組織だと思う。何か災害に見舞われた所は地域の必要性が分かるかもしれないけど、平和なことにここはそういったことがない。今自治会が流している情報も知らなければ知らないで生活できないことはないからいま自治会の必要性が分かってもらえてないのではないかなと思う。

S氏

なぜ自治会に入った。

自分は子供の時に田舎に住んでいたから、全員自治会に入り、回覧板が一軒一軒回ってきて冠婚葬祭はみんなでお祝いしてあげるのが普通と思っていた。だからこのマンションに来た時も自治会に入るのが普通だと思っていた。

苦労したことは。

勧誘はやはりしんどい。勧誘が火に油を注ぐこともある。個人的にはこのマンションの人達と嫌な関係にはなりたくない。

自治会に入らない人にはどんな理由がある。

自治会活動は大変と言えば大変で大丈夫といえば大丈夫だけれども大変というのが先走りしてしまって自治会はしんどいという固定観念が出来上がっていると思う。本来自治会はメリット、デメリットを考えるものではないけどデメリットばかりが先行していると思う。

自治会に入ってよかったことは

当たり前かもしれないけれどやはり知り合いが増えたことが一番だ。もし家で何かあった時に知り合いがいてくれたら頼ることができる。それはすごく良いことだと思う。言ってしまうえば大きい一軒家にみんなで住んでいるようなものだから、もっ

と意思の疎通を図らないといけない。やはりみんな住みよい環境を願っているし、自治会に入ることによって人となりも分かるし、距離が近くなると思う。

これからの課題は。

もっとお年寄りの活動をピックアップしてあげるのもいいかもしれない。いまは私達より元気なお年寄りが沢山いるし、その中にはこうした自治会活動に参加してみたいと思っている人もいると思うから、高齢者のイベントを考えていくのもいいかもしれない。それともっと自治会に入っている人が発信していかなければならないと思う。何かイベントがあったら自治会に加入しているかどうか関係なく沢山の人の「おいで」と声をかけてあげる。自治会に入ってくれないからダメというのではなく、入っている人が頑張らないとだめだと思う。他人が変わってほしければ自分が変わるしかないのだから、待っているのでは輪は広がらないと思う。

K氏

なぜ自治会に入った。

入ることが当たり前だと思っていた。私の場合このマンションではないけれど親が地域の活動に熱心だったからその影響もあるかもしれない。

苦労したことは。

特に役員になってからはイベントや会議の日程を主体的に把握しなければならないから、日常生活との兼ね合いがしんどかった。

自治会に入らない人にはどんな理由がある。

自治会に入っていない人は回覧板が回ってこないから、連帯感というものが薄れてくると思う。挨拶をしない人が増えた。このマンションは大きいというのがあるが、マンションの中だけで暮らしているのなと思う。地域の中の1つのマンションで暮らしているという認識がない。

自治会に入ってよかったことは

このマンションでどんな人は暮らしているのかを知ることができたことだ。少しでも多く顔見知り近くに来てくれた方が安心するし、住みやすい。若い人が挨拶してくれたらうれしい。

これからの課題は。

最近は一軒家からマンションにくるお年寄りの方が多い。だから新しい高齢者との付き合いは必要だと思う。年を取った人の線引きをどうするか。80歳で地域の役をやっている方もいるから年齢では線引きすることはできなくなっている。

次は紫野学区の方のインタビュー結果を見て行きたい。

I氏

なぜ自治会に入った。

ずっとPTAの活動をしていた。そして父親が神社の保全を目的とする会の会長をやっていた関係でその会長を引き継ぐことになった。その神社関係の方がPTAにもいてその方に誘われる形で町内会にはいり、気が付けば会長になっている。

苦勞したことは。

一番苦勞したことは寄付金集めだ。お金の使い道をしっかり説明し、尚且つ寄付金は自治会費に還元されるから決して損をすることはない、と説明しても頭ごなしに否定され、ボイコットされることもある。今現在寄付金は各団体がそれぞれ徴収しているが、そうすると同じ人から、何回も集金することになる。各団体が徴収するのではなく、自治会費として一括で徴収し、各団体に分配することも考えている。もう1つはやはり担い手の確保だ。今のご時世共働きの世帯がすごく増えた。昼間仕事で忙しくされている方にこちらから仕事を頼むのも悪いし、この問題は根強い。そこで委員会をつくりたい。今まではこのイベントではこの団体が動くなど、団体ごとに区切られていたが、イベントの遂行委員会という形で各団体の垣根を越えて、人を集めてみたい。

自治会にはいってよかったことは。

人間として成長できたことだと思う。今は自治会長として大勢の人をとり仕切る立場の者としての責任や難しさを実感する。けれども何か1つのことを大勢で協力して成し遂げたときはすごく達成感を感じるし、一層成長できた気もする。会長という立場にならないと分からなかったことだなと思う。

他の自治会とは違うところ。

学生とのつながりがある。うちの学区では佛教大学のボランティアサークルの方が自治会活動を色々手伝ってくれている。1人の方はもともとそのサークル出身者で、そこから佛教大学に職員として入社し、この学区に住んでいる。その方が指導になって、お年寄りの方を対象とした、カフェなどをしてくれたりする。その学生ボランティアのおかげで、今まではお年寄りを対象としたイベントばかりであったが、小さい子供向けのイベントも開催出来たりするし、何より若い人達が積極的に動いてくれることで自治会という場がより開放的になる。ただ今はこちら側の学生を受け入れる体制が整っておらず、イベントの準備の時でも連携が取れていない時がある。そこはしっかりとしなくちゃいけないし、何より今は我々が考えたイベントを学生に手伝ってもらっている状況だ。今後は学生たちの主催のイベントも行っていきたい。

これからの課題は。

もちろん、会員を増やすことも大切ではあるが、やる気のない人がいくら増えても困るだけだ。積極的に自分から動いてくれる人が必要だ。そこで先ほどのボランティアサークルは良い。積極性のある人がいればその人についていこうと沢山の人が動いてくれるし、縁も広がっていく。マンションは特別。マンションのオーナーか

ら販売会社、管理会社と受け渡されていくごとに、自治会加入の事を入居者に伝え
ない。またマンションは一軒家とは違い、1つ、1つ勧誘していくわけにもいかな
い。学生マンションも多いので余計に大変だ。でもすこしかわいそうとも思う。大
学生くらいの年頃の子はなにか新しいことに挑戦してみたいと思っている子も多い
はずなのに、こうした何か新しいことを始めるのに絶好の機会である、地域の自治
会活動から隔離されるのはかわいそうだ。

N氏

なぜ自治会に入った。

ずっと消防団をしていて、その団長から体振に入れといわれその流れで入った。

苦労したことは。

目上の人との付き合いは本当に疲れることがある。例えば社会福祉協議会などで
は、各会の長達が話し合いをして決めたとしてもそのことをしっかりと下の人達に
伝えないために食い違いが起きてしまったりして結局すごく時間がかかったりす
る。僕は役をする以上は前よりも良くしていきたいという思いがあるから会議とか
でもいっぱい発言するけど「今までずっとこうしてきたからこれからも変える気は
ない」と言われたりして、もめたりする。決まったことに背く気はないけど会議の
段階ではもっといろいろな意見が飛び交ってもいいのに、そうして否定されてしま
うと若い人も意見を言うことができなくなる。何か「こんなことをやりましょう」
と会議で発言すると「じゅあやってくれ」と言われることもある。そこで「面白そ
うだからみんなでやってみよう」とならないことも問題だと思う。余計に発言しに
くくなってしまう。多分何かを変えようとするからしんどさを感じると思う。やっ
ぱりそういうしがらみは嫌だと思う。

自治会にはいつてよかったことは。

こういう体振とか色々な所でイベントをしていると子供とかお年寄りが挨拶してき
てくれるようになった。消防団とかをやっていて親とはぐれた子供達が頼れるのは
知ってる顔の人だと思うから、顔が広がったのは良かったと思う。

他の自治会とは違うところ。

小学校の先生達とすごく仲が良いところかな。よく先生達と僕たちで飲みに行ったり
、カラオケに行ったりする。この前は休日にバスをチャーターしてみんなで潮干
狩りに行った。校長先生や教頭先生は定年までここにいたいと言ってくれている。
だからこうした地域の活動に関して学校がよく理解してくれている。イベントなど
は小学校で開催することが多いから学校との信頼づくりは大切だと思う。例えば紫
野祭りという出店が沢山集まる大きな祭りでは少し前まで小学校で開かれるから、
お酒が禁止だった。でも学校に頼み込んだ結果、許可されて今では飲めるようにな
ったからよりたくさんの方が集まってくれるようになった。

これからの課題は。

新しく入ってきてくれた人達のサポートはするようにしている。先ほども言ったとおりこういう活動が続けていくと人間関係のしがらみにとられることもある。それが嫌で辞めた人も見てきたから、しっかりと若い、新しい人達もどんどん発言して、気兼ねなく活動ができる環境を作っていこうと思う。後はマンションの人達を取り込もうとしていること。マンションは居住者も多いから、マンションごと地域の自治会に入ってくれたらすごくおおきい。今子供向けのバレーボール教室をやっていて、そこに通っているマンションの子供達の親とも仲良くなっている。マンションの規約を会議で変える機会もあるらしいからどんどん親とか管理人を巻き込んで参加してもらえるようになればと思う。

E氏

なぜ自治会に入った。

子供が小学校の時からPTAの役員をしていてその流れでやることになった。もう40年近くやっている。

苦労したことは。

上の立場になった時に人を動かすことは大変。気も使うけど、言わなければならないことをはっきり言わなければいけないから大変かな。似たようなものでは会議で決まったことに後から文句を言ったり、イベントの本番が始まったとたんに全く違うことをする人がいて困る。何か不満や分からないことがあれば会議の時に発言すればいいのに、後から言われると会議の意味がなくなってしまうのでそこは嫌。発言するだけして後は人任せみたいな人もいるから、こうして何か役をつとめる以上は責任をもって積極的に動いてほしいと思う。

自治会にはいつてよかったことは。

沢山のひと知り合えたこと。私は小さいお子さんがいる親子に交流の場を設けたりしているから、親はもちろん、子供も私の事を覚えてくれたりする。あと交通安全のために子供の登下校時に横断歩道に立ったりしているけど、長年やっている子供はもちろん、通勤や通学でそこを通る人とも顔見知りになったりする。

他の自治会とは違うところ。

やっぱり学校とすごく仲が良い事かな。一昔前はあまり仲はよくなかったけど、今は顔見知りの先生もたくさんいる。後声掛けかな。地域の清掃活動で道の掃除をしている時にも歩く人にしっかりと挨拶などをして声をかけることをみんなが心がけているのはすごいことだと思う。

これからの課題は。

今、学区の方針として急速に世代交代が進んでいるけども、ただ沢山の若い人達を入れるだけでは意味がないと思う。こうした地域の活動になれていない人達だけでは戸惑うこともあると思うから、こうした地域の活動にくわしいベテランの人も満遍なく加入してもらわないとだめだと思う。もちろん若い人を育て将来的には団体の

長になってもらわなければならないので、集団の長としての心構えなどを教える勉強会みたいなものが開催されればいいのと思う。また特に最近イベントがふえてきたせいで同じ日に複数のイベントが被ってしまうことがある。それでは子供たちも分散してしまうからかわいそうだと思う。各団体が日程調整などをしっかりすれば防げることだと思うから各団体の横のつながりは大切にしようと思う。

4.4 調査結果

これまでのインタビュー内容からマンションと紫野を比較分析してみたい。まず先行研究から分かった自治会の加入率の減少の影響を与える原因から順番に見て行きい。上述した通りに主な先行研究から分かった主な原因は以下の6つである。

- ① 単身世帯数
- ② 町内社会の統合、調整の問題
- ③ 合意形成と共同感情の表出に関する問題
- ④ 公的・共同的資源の問題
- ⑤ マンションの形態
- ⑥ 広報

1つ目の単身世帯数に関しては表1からまず紫野学区は47.5%(1852/3900)。そして京都市は47.0%(322797/708370)である。あくまでも割合ではあるが紫野学区は特別に単身世帯が少ないというわけではない。筆者のマンションは詳しい単身世帯数までは分らなかったが、M氏のインタビューにもある通りに家族で住んでいる方も多く、決して単身世帯が多いというわけではない。

2つ目の町内社会の統合、調整の問題についてはマンションのF氏がおっしゃるように筆者のマンションがある地域は古いというのもあるが排他主義とまではいかないでもすこし保守的なところがあり大きなマンションが建ち、沢山の方が入居しても勧誘を渋る。紫野学区は今年から新たにハロウィンパーティーを開催し、地域の活動をより沢山の方に知ってもらおうとしている。しかしN氏がおっしゃるように会議で「今まではこうしてきたからこれからもこうする」という意見が他の新しい意見をつぶしていることもすくなくあるようだ。また各団体のよこのつながりという面でも課題がある。E氏がおっしゃるように各団体の連絡が不足しているために同じ日に複数のイベントが被ったりしている。

3つ目の合意形成と共同感情の表出に関する問題。この問題は要するに自治会活動における人間関係のこじれなどである。マンションのH氏やM氏、S氏がおっしゃっているように募金や勧誘など訪問から自治会未加入の方と仲がこじれるケースやM氏のようにマ

ンション特有の管理組合との軋轢などもある。紫野の場合でもN氏、E氏ともに会議やイベントの場面で人間関係の難しさを感じられている。

4つ目の公的・共同的資源の問題についてマンション、紫野ともに募金の徴収など資金集めには苦勞されており、お金というデリケートなことに触れるために神経質になる方も多いようだ。マンションのF氏がおっしゃるように「自治会は市の下請けだろう」といわれることもあるようで地域のためということを理解されないこともあるようである。

5つ目のマンションの形態については筆者のマンションは民間分譲マンションである。ただし例外もあり部屋によってはオーナーから賃貸という形で借りている場合もある。紫野に関してはIさんがおっしゃるようにマンションというのは人の数も多く、形態やオーナーの考えなどで差があり自治活動に参加してくれるかどうかは分からないらしい。京都市分譲マンション実態調査によると紫野のデータではないが紫野が属している北区の分譲マンションの割合は北区の住宅総数に対して 4.8%である(京都市都市計画局2007)。京都市の平均は 11.7%であるために分譲マンションは少ないということが分かった。マンションは地域の自治組織にとっては非常に実態をつかみにくいものである。私の地域においても新しいマンションへの地域組織の加入がすこし消極的なのはそうした事情があるからであろう。しかしN氏おっしゃるようにバレーボール教室のつながりから管理人を巻き込んで地域の自治組織に加入してもらえるように行動されている。

6つ目の広報ではマンションの場合イベントの告知は回覧版で回したりやマンションのエントランスの掲示板に提示したりしているが、回覧板は自治会に加入している部屋にしか回らず、未加入の方の目には触れることない。エントランスに提示しているのも注意深く見る方はそうそう多くないだろう。一方紫野では回覧板で回すことはもちろん、学校とのつながりが強いためにしっかり先生が子供に地域のイベントを伝えて、子供達が親に伝えるという構造が出来上がっている。またイベントに来てくれた方に自治会加入を勧める紙を配るなどしてしっかり情報が回るようになっており自治会がどのような活動をしているのかしっかり伝えている。

これまで自治会加入率の減少に影響を及ぼす原因を見てきたが、マンションにしても紫野にしても似たような問題を抱えていることが分かった。勧誘や募金、人間関係などである。こうした問題はおそらくすべての自治会が抱える問題ではなかろうか。単世帯数においては紫野においても半分近くを占めているために単世帯数が少ないことはない。しかし広報という面では差を感じるがあった。イベントをする時には同時に自治会のことを知ってもらうチャンスとして自治会のチラシを配っている。そのイベントに参加した方はそのイベントが楽しければ楽しいほどに地域の活動に興味を持ってくれるだろう。E氏がおっしゃるようにイベントの最中にも積極的に周りの方に声をかけるなどして興味を持ってもらおうとしている。ただ単純に家に訪問され勧誘を受けるよりも楽しいイベントの最中の方が自治会に対する印象もよくなるだろう。

次に自治会活動を活性化させる要因についてみていきたい。項目は先行研究から以下の3つである。

- ① 地域で共生していくことの動機付けおよび個人の社会参加の認知
- ② ソーシャルキャピタルおよび地域力増加
- ③ 地域愛着

1つ目の地域で共生していくことの動機付けおよび個人の社会参加の認知に関しては紫野のI氏は学生ボランティアのおかげで若い人達が積極的に動いてくれるおかげで自治会が開放的になったとおっしゃっている。またその学生ボランティアがお年寄り向けのカフェなどを開いてくれるおかげでお年寄りの方も自治会に興味を持ってくれるようになり、若い人が頑張る姿をみて他の人もより積極的に動いてくれるようにもなる。これは高齢者のみならず地域に住まう他の人にして地域に住むこと、また地域のために働く意義を見つける動機付けに良い影響を与えている。一方マンションも学生ボランティアという形ではないがH氏がおっしゃるように3世代にわたってこのマンションに住んでいらっしゃる家もあるようで、そうした方はこのマンションに思い入れもあるだろうし、きっとこれからもこのマンション、ひいてはこの地域に貢献してくれると感じている。マンションにも紫野の学生ボランティアのように他の方のやる気を起こす、いわば動機付けのきっかけになれるような方もいるのである。

2つ目のソーシャルキャピタル増加による地域力、及び地域コミュニティの活発化についてはまず地域力とは各団体の横のつながりによって地域のつながりによって地域の課題を地域で解決する力のことであり、社会や地域における信頼関係や結び付きを表す概念であるソーシャルキャピタルが増加し設備や制度や組織力が改善することによりこの地域力は増加する。ソーシャルキャピタルはあいさつの度合いも関係してくるが、マンションのM氏やK氏がおっしゃるように自治会に入っていない部屋には回覧板が回ってこないこと、そしてマンション自体が大きいということもあり、連帯感が薄れ、挨拶をしない人も増えているようだ。住民同士のつながりという面では不安を感じる方もいるだろう。紫野に関しては住民の交流の場というものを沢山設けている。このおかげでつながりはより深く、より広くなるだろう。ここでもそうしたイベントをより多くの人に伝えることができるかという広報の度合いが関わってくる。E氏がおっしゃるようにイベント時には全員で街行く人にあいさつをするということを徹底されたりしていて、自治会の活動のPRをしっかりと行っている。そのおかげで自治会の活動を知った定年退職された方がアルタークラブという高齢者団体の組織統率で活躍されたりしているらしい。このように既存とは違うスキルを持ったメンバーとつながりができることでさらに地域力は向上する。紫野は地域全体でしっかり人間関係を構築されておりそれが地域力向上に活かされているということが分かった。

3つ目の地域愛着については今回の回答者の方全員が高い。地域愛着には移動形態や買い物をするところなどが関わってくるが8人中7の方が普段は自転車および徒歩で

ある。買い物についても女性の方は全員地元で買い物はすると回答し男性の方2名についても買い物自体あまりしないが近くのコンビニかスーパーですと回答された。また回答者全員の居住年数も非常に長く、そして全員が「ここにずっと住んでいたい」とおっしゃっている。しかし今回の回答者の方は長年自治会の活動に関わってこられた方ばかりであるために地域愛着に差がでないことは当たり前であるかもしれない。

5 考察

今回この調査を通して学んだことは2つである。1つ目は広報の度合いが自治会活動の活発化に影響を及ぼすこと。加入率を上げようにも自治会があることを知らない人が多いのではどうしようもない。未加入の人が自治会についてどういう印象をもつかよりも先に自治会があり、こういう活動をしていると知ってもらうことが大切である。そのためには学校との連携も大切である。特に自治会というのは子供向けのイベントもよく行うために学校が子供にしっかりと伝えることは自治会に興味を持ってもらうための第一歩である。また地域のイベントの多くは学校で行われることが多いために、学校側の地域の活動に対する理解は必要である。マンションにおいても4月に自治会の広告をすべての部屋に配ったり、勧誘訪問をしたりしているが、そもそもインターホン越しに会うことすら断られたりする。また1年に一度広告をポストに入れるだけでは見てくれない方も多いただろう。例えば紫野のように地藏盆の時にチラシを配るなどそうした工夫が必要ではないか。S氏がおっしゃるようにイベント時には加入しているかどうか関係なく声をかけることも行うべきであろう。また学校との密な連携も大切である。子供向けのイベントをしっかり子供にむけて伝えるためには学校の力が必要である。

2つ目は自治会活動を活発化させるためには自治会で働くことの意味を見つける動機付けが大切であり、動機付けのきっかけになってくれる積極的に動いてくれる若い方が必要であること。マンションのH氏、紫野のI氏、E氏がおっしゃるようにただ数が増えても意味はない。積極的に自分から動いてくれる人が必要なのである。そして高齢化が進んでいる自治会では役員の方にお年寄りが多い影響もあり、若い方が入りにくい状況である。そのためにも紫野の学生ボランティアのように自分から率先して動く若い人がいてくれるだけで、その地域に住んでいる若い方も入りやすくなる上に会議などでも発言しやすいだろう。またベテランの方も若い方が積極的に動いてくれる姿を見ることでより一層活動にも精が出る。しかし紫野のE氏がおっしゃるように若い方ばかりが増えても戸惑うこともあるために支えてくれるベテランの方の存在も必要である。そして学生のボランティアサークルも地域の活動をしたいと思ってもどこに連絡を取っていいかわからないという問題があるらしい。各自治会がホームページなどで呼びかけること

も必要である。マンションにおいても紫野の学生ボランティアのように先頭にたって引っ張る若い方が必要である。3世代にわたってこのマンションに住んでいる方はきっとこのマンションにたいする愛着もあり、地域の活動にも熱心に動いてくれるだろう。

今回の研究の課題としては自治会未加入の人にインタビューをできなかったことである。今回はあくまで加入者の方が未加入の方の事情を推測するにとどまり、未加入の方の生の声を聴けてはいない。上述した自治会加入率の減少を及ぼす要因も未加入の方のお話を聞くことができれば更なる発見があったと思う。

謝辞

本稿を執筆するにあたり、多くの方にご協力いただきました。お忙しい中、本調査のために時間を割き、協力して下さった紫野学区の方々およびマンションの自治会員の方々に感謝申し上げます。

参考文献

- 鱒坂学,2008,『京都の「まち」の社会学』世界思想社.
- ,2015,『都心回帰による大都市都心の地域社会構造の変動』「日本都市社会学年報」33:21-37.
- 萩原剛・藤井聡, 2005,「交通行動が地域愛着に与える影響に関する分析」『土木計画学研究講演集』.
- 岩崎信彦,1989,『町内会の研究』御茶の水書房.
- 金貞任,2014,『地域中高年者の社会参加の現状とその関連要因』「日本公衆衛生雑誌」51(5):322-334.
- 京都市,2007,「平成19年京都市分譲マンション実態調査」京都市ホームページ
(2017年12月15日取得,
file:///C:/Users/OWNER/AppData/Local/Microsoft/Windows/INetCache/IE/K9VVS
U14/chousa_mansion_h19%20(1).pdf.VVSU14/chousa_mansion_h19%20(1).pdf).
- 京都市,2016,「京都市のあらまし」京都市ホームページ
(2017年12月18日取得,
<http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000015607.html>).
- 京都市,2016,「平成28年自治会・町内会アンケート報告書」京都市ホームページ
(2017年11月20日取得,
www2.city.kyoto.lg.jp/shikai/img/.../290317bunshi-4.pdf).
- 京都市,2017,「平成29年京都市北区人口統計調査」京都市ホームページ
(2017年11月20日取得,
file:///C:/Users/OWNER/AppData/Local/Microsoft/Windows/INetCache/IE/K9VVS
U14/chousa_mansion_h19%20(1).pdf)..
- 中田実,2007,『地域分権時代の町内会・自治会』自治体研究社.
- 鈴木春奈, 2008,「消費行動が地域愛着に及ぼす影響に関する研究」『土木学会論文集D』64:190-200.
- 鈴木春菜,2008,『地域愛着が地域への協力的行動に及ぼす影響に関する研究』「土木計画学研究論文集」25:357-362.
- 田中志敬,2016,『都心住民の近所づきあいと住民自治』「社会科学」45(4):243-270.
- 辻中豊・ロバートペッカネン・山本英弘,2009,『現代日本の自治会・町内会』木鐸社.
- 湯沢昭,2011,『地域力向上のためのソーシャルキャピタルの役割に関する一考察』「日本建築学会計画系論文集」76(666):1423-1432.